

令和6年度宮崎県森林環境税活用検討委員会議事録

<p>R6.6.5 (水) 13:30~15:30 場所：防災庁舎5階 防52号室</p>	<p>出席者 委員：9名中8名（委員1名欠席） 県：部長、次長、各課・室長等</p>
<p>発言者</p>	<p>発言内容</p>
<p>○部長挨拶 ○検討事項</p>	<p>(1) 令和5年度使途事業の実施報告について (2) 令和6年度使途事業における改善事業について</p>
<p>○事務局説明 ○質疑 委員 事務局 委員 事務局 委員</p>	<p>【(1) 令和5年度使途事業の実施報告について】</p> <p>「森林環境教育等サポーター育成研修」の内容は。</p> <p>○環境森林課長 森林環境教育を行う際の、講師の補助者となる方を育成する。令和5年度は、木や竹を用いた物づくりや自然散策におけるサポート方法の研修を行った。</p> <p>新たな資機材による造林下刈り作業の実証で、昨年度が4ヶ所0.6ヘクタールとあるが、防草シートの敷設の成果を知りたい。</p> <p>○森林経営課長 1年目は苗木の周囲に木綿のシートを敷いたが、風雨で剥がれる弱点があった。2年目は、コスト面も考慮し、タールを塗布した二重の麻シートを敷いて経過観察した結果、2年程は草の発生を抑えることができ、その経費は下刈り2年分の経費と同程度であることが分かった。 防草シートが活用できるという状況では無いが、都城森林組合によるその後の検証結果も情報共有し、今後どのように進めていくか検討していく。</p> <p>防草シートを用いる場合、資格を持たない者が設置できることから、現</p>

	<p>場で使えるようになると良いと感じた。また、シートを敷設後、取り外さず自然に置いておける素材だと良いと思う。</p>
委員	<p>企業や森林ボランティア団体の相談件数 79 件の内容は。</p>
事務局	<p>○環境森林課長 ボランティア団体からの植栽樹種の相談や、企業からの「企業の森」に取り組みたいとの相談など、幅広い相談を受けている。</p>
委員	<p>企業の森づくり整備保全協定締結 6 件は、今現在 6 社と協定を締結しているということか。</p>
事務局	<p>○環境森林課長 令和 5 年度の協定締結件数が 6 件。今までのトータルでは 76 件。</p>
委員	<p>樹木医の相談とあるが、「この樹木を見てください。」と言えば、見てもらえるのか。また、費用は。</p>
事務局	<p>○環境森林課長 電話相談や樹木医による現地診断などを、森林環境税を活用して無料で行っている。</p>
委員	<p>山村地域の持続的発展推進会議の開催回数。</p>
事務局	<p>○環境森林課長 例年、年 1 回の推進本部会議と森林・林業・木材産業講演会を開催している。</p>
委員	<p>みやざき新巨樹百選魅力再発見事業で更新・増刷したパンフレットの配布先、内容は。</p>
事務局	<p>○環境森林課長 市町村や森林ボランティア活動団体への送付、イベント会場での配布などを行っている。内容は、巨樹の場所や写真、周遊ルートの案内など、巨樹を知り、関心を持っていただける内容を目指して作成している。</p>
委員	<p>インターネットで調べたところ、新巨樹百選の Y o u T u b e の再生回数がちょっと残念な数だったので、何かその辺りも P R できたら良いと思う。</p>

委員	<p>「広葉樹造林等推進事業」の県内 50 ヶ所の内容・地域は。</p>
事務局	<p>○森林経営課長 広葉樹は造林の難易度が高いため、平成 18 年からこれまでに植えてきた箇所の、樹種・生存率・樹高などを調査し、どういった樹種が育つのか、またどの様な管理が良いのかを調査している。調査は令和 4 年度が 40 ヶ所、令和 5 年度が 50 ヶ所、地域は県内一円。</p>
委員	<p>非常に貴重な調査だと思う、広葉樹造林は技術が確立されておらず、難しい面もある。調査結果をマニュアル化する考えがあるか。</p>
事務局	<p>○森林経営課長 調査結果を基に、宮崎大学の高木先生にお願いし、植栽に適した樹種、下刈りなどの育林方法などを検証してもらい、マニュアルを作成することとしている。</p>
委員	<p>荒廃溪流流木等対策事業の事業実績の中で「繰越」とあるが意味を知りたい。</p>
事務局	<p>○自然環境課長 令和 5 年度の年度後半に契約し、令和 5 年度から令和 6 年度に、事業予算を繰越して、今実施している。</p>
委員	<p>災害復旧等の工事が人手不足で遅れていると聞かすが、そういうことが関係しての繰越か、タイミング的なものか。</p>
事務局	<p>○自然環境課長 人手不足とは別の問題。工事内容は流木の処理で、森林組合等を中心に行うが、現場までの被災した道の復旧が先に行われ、現場に入れるようになったのが年度後半になったことによるもの。</p>
委員	<p>「森林づくり活動支援事業」は、水と緑の森林づくり条例や森林環境税の「県民共有の財産である森林を県民全体で支えていく」という趣旨から、大事であり、今後も続けて欲しいと思う。 「森林づくり活動支援事業」に取り組む団体が、以前は宮崎市周辺に集中していたが、資料を見ると全県的に広がってきたように思う。その解釈でよいか。</p>

<p>事務局</p> <p>委員</p>	<p>○環境森林課長</p> <p>ある程度全県的に取り組んでいただいているが、さらに広がるよう情報発信に努めていきたい。</p> <p>以前、森林ボランティア団体が活性化した時期があるが、今は、団体構成員が高齢化している。若い人たちも含め盛り上がると良いと思うので、普及PRをお願いしたい。</p>
<p>○質疑 委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>【（２）令和６年度使途事業における改善事業について】</p> <p>森林環境教育支援事業における未就学児の参加について、小さいころの記憶はずっと残ることから、ぜひ継続していただきたい。</p> <p>次世代の苗木生産者育成研修事業について、年間４名程度の生産者とあるが、受講者は確定しているのか。</p> <p>○森林経営課長</p> <p>新規の生産者の技術を上げるために、穂の採取、挿し付け、水やり、出荷など、時期に合わせて８ヶ月間、週１回程度、１日約５時間、優良苗木生産者の指導のもと技術を高めてもらう。生産者２名が受講者を各２名受け入れ、合計４名を予定。樹苗組合の中で募集し、聞き取りや面接により意欲を確かめて選定する。</p> <p>九州初の事業であり、就労支援などにも繋がることから、ぜひ成功させてほしい。</p> <p>「九州自然歩道利用環境整備事業」について、私ども商工会議所では、宮崎で４０００企業、１万５０００人程の会員の働き方改革、健康がテーマになっている。福利厚生などの推進のため、商工会議所事務局が、従業員向けに様々な活動を行っており、ロングトレイルの利用促進にお手伝いができるのではないかと思います。また、管理が進めば、もっともっとPRや利用促進に協力できると思う。</p> <p>次世代の苗木生産者育成事業について、商工会議所では、苗木（庭木）を生産される事業者が参加して、春と秋に植木市を実施しており、スギ苗木生産者と連携できる場所もあると思った。</p> <p>○自然環境課長</p> <p>PRや利用促進等について、商工会議所の力を借りることができると良いと思う。</p>

委員	<p>サポーター研修について、25年程前に県主催で、森づくりボランティア女性リーダー養成講座を、50人程度の募集で、5期生まで開催されていた。</p> <p>現在、森林環境教育や森林づくりボランティアに関わる人が高齢化している。自分たちも教えていく気持ちはあるが、年齢とともに体力が落ち、活動回数が減少している。講師の育成に取り組んで欲しい。</p> <p>木をアートとして活用できるような若い講師など、全く分野が違う人でも、講師として活動する中で、森林・林業ってこんなに大事なんだということを伝えるようになり、県民にもっと理解を広めていく上で必要ではないかと思う。今後、そういう人材の養成講座も考えていただきたい。</p>
事務局	<p>○環境森林課長</p> <p>地域の中でリーダーシップをとって森林環境教育を行う方が必要であるが、高齢化も進んできている。できるだけ若い方に興味を持っていただくよう、教育委員会等も連携しながら、学校での活動など、若い人向けの活動にも力を入れているところ。若い人を指導者として育てていけるような形に持っていけたら良いと思っている。</p>
委員	<p>宮崎の自然公園誘客強化事業の現状と課題にある「これまで登山やハイキングをしていないライト層の利用者の掘り起こし」について、友人と一緒に巨樹巡りに行くこともあるが、そういう人もライト層だと思う。</p> <p>下刈りとか伐採の森林ボランティアの活動は結構大変で、活動の後のみんんで作る食事が楽しかったりする。そういうライト層をどう引き込むかということ、皆さんと考えていきたいと思う。</p>
事務局	<p>○自然環境課長</p> <p>森林の中にある自然公園について、様々な見所があるので、情報発信しながら利用者の拡大に努めていきたい。</p>
委員	<p>自然歩道利用環境整備事業について、令和8年度以降も実施するのか。</p>
事務局	<p>○自然環境課長</p> <p>3年間の事業であるが、自然歩道は100Km程あることから、状態を把握した上で、優先順位の高いところから整備を行う。</p> <p>予算の関係もあり時間がかかるが、国の事業等も活用しながら整備を進めていきたい。</p>
委員	<p>昨年度の会議において情報発信力が大切だと述べたが、「ひなた MAFiN」の活用という形になって嬉しいと思った。</p> <p>私も会社で広報を担当しているが、情報発信は課題になっている。ホー</p>

事務局	<p>ムページは、自分で検索しないと見てもらえない面もあるので、立ち上げて終わりではなくて、どうやって見せていくかが課題になっていくと思う。知りたい情報がここにあれば、紹介できると思うので、コンテンツを充実させていくと良いと思う。</p> <p>○環境森林課長 「ひなた MAFiN」は、農政水産部が作成したものに載せる形で、農政分野の方にも、林業のことを知ってもらえる。 令和5年度に、「みやざきの環境」という環境教育のホームページも、リニューアルしており、こちらもご覧になっていただければと思う。</p>
委員	<p>リスクマネジメントについて、宮崎は特に、全国的にも林業の事故がワーストとなっている。森づくり協議会でも、チェーンソーや刈払機研修会などを行ってきた。企業の森づくりや森づくりボランティア団体協議会、個人の林業経営者に向けた研修がどの程度行われているかが把握ができていれば、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>○山村・木材振興課長 美郷町の林業技術センターで、1人親方も含めて、林業従事者向けの労働災害防止に係る研修を行っている。 林業労働災害は、死亡災害が昨年3件、今年も2件起きており、他県と比べても労働災害、特に重篤な死亡災害が多い状況にある。これは新規の就労者を確保する上でも非常に大きな問題であり、力を入れて取り組んでいる。防災ヘリコプターを使った救助訓練を、一昨年は西臼杵地区で、昨年は東臼杵地区で実施しており、今年度は西諸地区で実施予定。電波状況が違う中での通報体制や、三角巾の代用としてレジ袋を使って手を吊る方法、毛布を担架の代わりにする方法などの実践を行うとともに、本年度はマニュアルの整備にも取り組むこととしている。</p> <p>○環境森林課長 森林づくり活動支援事業の中でボランティア活動を行う者が受講する刈り払い機・チェーンソー特別教育費用について、今年度から補助対象としている。</p>
委員	<p>【その他全体にかかる意見交換・質疑応答】</p> <p>「ひなた MAFiN」の活用に関して、森林環境税を使った県民のボランティア活動の様子など「映える」写真を掲載することで、ライトな層にもっと関心を持っていただけるのではないかと。</p>

委員	<p>これまで林業の方々とは縁がなかったが、説明を聞いて繋がりがあることが分かり、産業間での連携を広めることが重要だと感じた。きつい仕事から人手不足となっている状況もある。国の森林環境税、県の森林環境税の違いの話もあったが、宮崎はこうだというような、胸を張っていけるような、県民がみんなで誇りにできるような事業になっていくと良いなということを実感した。</p>
事務局	<p>○環境森林部長</p> <p>お話があったように、産業間の連携を広めていきたい。担い手不足については、林業・木材産業分野においても深刻な課題となっているところ。森林の魅力を分かってもらおうよう、いろいろと手だては取っているが、日本国全体の人口減少も大きくこのしかかっている状況。いろいろご意見いただきながら今後とも進めて参りたい。</p>